

第37回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表
計算書類の個別注記表

株式会社ジャストシステム

「連結計算書類の連結注記表」および「計算書類の個別注記表」につきましては、法令及び定款第15条の定めに基づき、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載することにより、株主の皆様提供しております。

(https://www.justsystems.com/jp/just/ir_info.html)

連結注記表

連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び主要な連結子会社の名称

連結子会社の数 1社

会社の名称

JustSystems Canada Inc.

(2) 非連結子会社の概況

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度に関する事項

連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券----- 償却原価法（定額法）

その他有価証券

時価のあるもの----- 決算日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの----- 移動平均法による原価法

投資事業組合への出資----- 組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な直近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

②たな卸資産の評価基準及び評価方法

主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社は定率法を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。なお、主な耐用年数は下記のとおりであります。

建物及び構築物 10～65年

工具器具備品 2～20年

無形固定資産

ソフトウェア-----	市場販売目的のパッケージソフトウェア制作費については、ソフトウェアの見込販売可能期間(18ヶ月)における見込販売数量に基づく償却額と見込販売可能期間に基づく定額償却額とのいずれか大きい額により償却しております。 自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(3～5年)に基づく定額法により償却しております。
その他の無形固定資産-----	定額法を採用しております。
リース資産-----	リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金-----	債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
賞与引当金-----	従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額基準により計上しております。

(4) 退職給付に係る負債の計上基準

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度より費用処理することとしております。

未認識数理計算上の差異については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。なお、退職給付の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産、負債、収益及び費用は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6) 消費税等の会計処理方法

税抜方式を採用しております。

5. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表関係注記

担保に供している資産

(単位：千円)

担保に供している資産			担保権によって担保されている債務	
種類	期末帳簿価額	担保権の種類	内容	期末残高
建物	2,564,782	根抵当権	当座借越	－ (注)
土地	3,409,893	根抵当権		
計	5,974,675	－	計	－

(注) 建物及び土地に対応する債務残高はありません。

連結株主資本等変動計算書関係注記

1. 当連結会計年度末における発行済株式総数

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式	64,224,800株	－	－	64,224,800株

2. 当連結会計年度中に行った剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年6月22日 定時株主総会	普通株式	192	3	2017年3月31日	2017年6月23日
2017年11月6日 取締役会	普通株式	192	3	2017年9月30日	2017年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	192	3	2018年 3月31日	2018年 6月22日

3. 当連結会計年度末日における新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については短期的で安全性の高い金融資産に限定しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2018年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時 価 (注1)	差 額
(1) 現 金 及 び 預 金	15,015,202	15,015,202	—
(2) 受取手形及び売掛金	3,592,504	3,592,504	—
(3) 有 価 証 券	14,112,485	14,112,485	—
(4) 投資有価証券 その他有価証券(注2)	50,502	50,502	—
(5) 買 掛 金	(1,126,275)	(1,126,275)	—
(6) 未 払 金	(1,392,449)	(1,392,449)	—
(7) 未払法人税等	(1,082,733)	(1,082,733)	—

* 負債で計上されているものは、()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金、(3)有価証券

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。

(5)買掛金、(6)未払金 及び (7)未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 非上場株式等(連結貸借対照表計上額16,019千円)は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

1 株当たり情報に関する注記

- 1 株当たり純資産額 628円15銭
- 1 株当たり当期純利益 71円01銭

1 株当たり当期純利益の算定上の基礎は以下のとおりであります。

連結損益計算書上の親会社株主に帰属する当期純利益	4,560,440千円
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益	4,560,440千円
普通株式の期中平均株式数	64,224,275株

個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券-----	償却原価法（定額法）
子会社株式	移動平均法による原価法
その他有価証券	
時価のあるもの-----	決算日の市場価格等に基づく時価法 （評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
時価のないもの-----	移動平均法による原価法
投資事業組合への出資-----	組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な直近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品、製品、原材料（主要材料）	総平均法による原価法 （貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）
原材料(副材料)、貯蔵品-----	最終仕入原価法 （貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）

3. 固定資産の減価償却方法

有形固定資産（リース資産を除く）	定率法 ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。 なお、主な耐用年数は下記のとおりであります。 建物及び構築物 10～65年 工具器具備品 2～20年
無形固定資産	
ソフトウェア-----	市場販売目的のパッケージソフトウェア制作費については、ソフトウェアの見込販売可能期間（18ヶ月）における見込販売数量に基づく償却額と見込販売可能期間に基づく定額償却額とのいずれか大きい額により償却しております。 自社利用ソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3～5年）に基づく定額法により償却しております。
その他の無形固定資産-----	定額法

長期前払費用----- 定額法
リース資産----- リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

貸倒引当金----- 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金----- 従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額基準により計上しております。

退職給付引当金----- 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度より費用処理することとしております。

なお、退職給付の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

関係会社事業損失引当金----- 関係会社の事業の損失に備えるため、当社が負担するものと見込まれる金額を計上しております。

6. 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

7. 消費税等の会計処理方法

税抜方式を採用しております。

8. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表関係注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 7,969,860千円

2. 担保に供している資産

(単位：千円)

担保に供している資産			担保権によって担保されている債務	
種 類	期末帳簿価額	担保権の種類	内 容	期末残高
建 物	2,564,782	根抵当権	当座借越	－ (注)
土 地	3,409,893	根抵当権		
計	5,974,675	－	計	－

(注) 建物及び土地に対応する債務残高はありません。

損益計算書関係注記

関係会社との取引高

営業取引

売上高

3,518千円

営業取引以外

4,566千円

株主資本等変動計算書関係注記

当事業年度末における自己株式数

普通株式 538株

税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(流動の部)

繰延税金資産	
賞与引当金	100,703千円
未払事業税・事業所税	73,647千円
たな卸資産	64,324千円
その他	114,411千円
繰延税金資産小計	353,086千円
評価性引当額	－千円
繰延税金資産合計	353,086千円

(固定の部)

繰延税金資産	
無形固定資産	142,000千円
退職給付引当金	36,170千円
関係会社事業損失引当金	153,100千円
有形固定資産	46,166千円
投資有価証券	13,025千円
その他	80,808千円
繰延税金資産小計	471,272千円
評価性引当額	△364,780千円
繰延税金資産合計	106,492千円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△6,097千円
繰延税金負債合計	△6,097千円
繰延税金資産の純額	100,394千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率	30.9%
(調整)	
住民税均等割額	0.2%
評価性引当額	△3.2%
試験研究費特別控除	△1.0%
その他	△0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.9%

退職給付関係注記

1. 退職給付債務及びその内訳

退職給付債務	△642,885千円
年金資産	502,520千円
<hr/>	
未積立退職給付債務	△140,364千円
未認識数理計算上の差異	△33,329千円
<hr/>	
退職給付引当金	△173,693千円

2. 退職給付費用の内訳

勤務費用	59,857千円
利息費用	3,720千円
期待運用収益	△5,702千円
数理計算上の差異の費用処理額	△18,177千円
<hr/>	
退職給付費用計	39,698千円

3. 退職給付債務等の計算の基礎

割引率	0.6%
長期期待運用収益率	1.2%
退職給付見込額の期間配分方法	給付算定式基準
数理計算上の差異の処理年数（翌事業年度より費用処理）	5年

関連当事者との取引に関する注記

子会社及び関連会社等

(単位：千円)

属性	会社等の名称	住所	資本金 又は出 資 金	事業の 内容 又は職業	議決権 等の所 有(被所 有)割合	関係内容		取引の 内容	取引 金額	科目	期末残高
						役員 兼任 等	事業 上の 関係				
子会社	JustSystems Canada Inc.	カナダ バンクー バー市	10百万C\$	ソフトウ ェアの開 発・販売	100.0%	1	なし	資金の 貸付	-	長期 貸付金	369,886
								利息の 受取	4,566	-	-

(注) 1. 取引条件及び取引条件の決定方針等

資金の貸付については、市場金利を勘案して交渉のうえ、利息を決定しております。

2. 上記の関係会社に対し、当社が負担すると見込まれる事業に係る損失額につき、関係会社事業損失引当金を計上しております。なお、当事業年度末の残高は500,000千円であります。

1株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額 626円31銭

2. 1株当たり当期純利益 71円64銭

1株当たり当期純利益の算定上の基礎は以下のとおりであります。

損益計算書上の当期純利益	4,601,139千円
普通株式に係る当期純利益	4,601,139千円
普通株式の期中平均株式数	64,224,275株